

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493400368	事業の開始年月日	令和1年10月1日
		指定年月日	令和1年10月1日
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラスト瀬谷		
所在地	(246-0015) 神奈川県横浜市瀬谷区本郷3-49-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和5年8月15日	評価結果 市町村受理日	令和5年11月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な住宅地に立地し、歩いて行ける範囲に心癒される神社や自然豊かな公園があります。散策の際には近隣にお住いの方々との出会いや何気ない会話を交わし、公園では飛び回る子供たちの様子を目を細めご覧になりながら入居者様は元気をもらっています。出会えたご縁に感謝し、その人らしさを大切に、という視点から「私たちに出来ること、グループホームだから出来ること」を考えております。「ここに来て良かった」「ありがとう」という言葉をたくさん集めていきたいと思っております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年9月20日	評価機関 評価決定日	令和5年10月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄本線「瀬谷」駅より徒歩15分、瀬谷図書館が近くにある静かな住宅地の中にあります。周りには畑や大きな公園、川も流れていて広々としたところです。法人は、医療・介護・保育・教育事業を全国的に展開しています。

<優れている点>

ノーと言わない支援を心掛けています。ピアノの教師だった入居者が自宅から馴染みのピアノを持ち込みたいという要望を叶え、リビングに置いて皆で歌って楽しんでいます。地域とのつきあいを大切にしています。コロナ禍以前は自治会の夏祭りに事業所の駐車場を提供したり、近隣の小学校の児童が来所し交流していました。小学校の先生から交流再開の打診をもらっています。窓にAED設置のシールを貼ることで近隣に周知し、緊急時にAEDの提供が出来るようにしています。医療支援が充実しています。内科、精神科、歯科、皮膚科、眼科の往診が可能となり、多くの受診が外来に出かけることなく受診できるようにしています。看護師職員が日頃の健康状態を把握し提携医療機関に繋ぎ安心して生活ができる仕組みとなっています。

<工夫点>

運営推進会議は曜日を固定しないで順に変更しながら開催しています。そのため、訪問看護の看護師や自治会長、民生委員、瀬谷区役所職員、地域包括支援センター職員、家族と利用者、地域住民など多様な人が参加することができ、多くの人から意見をもらうことができています。また、入浴の理解が難しい入居者には、尊厳を損なうことなく洋服を脱ぐイラストを示して入浴に誘う工夫をして支援しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ソラスト瀬谷
ユニット名	2階さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	2022年度より企業理念が一新され、それを基に事業所の理念も改めています。職員との共有は毎月の全体ミーティングや個別の面談等の機会を設けています。それを利用者様へのケアに活かせるよう取り組んでいます。	新たに策定された企業理念を基に事業所理念を作成しています。毎月の事業所会議や日頃の会話の中で理念について話し合い共有しています。管理者は仕事のやりがいを大切にしており、年2回以上行う個人面談で理念や仕事のやりがい、意義について話し合います。	新しく作成した事業所理念について、現状の頻繁な話し合いの他にも、理念を掲示することにより意識する機会を増やすことが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍以前は、近隣散策の際の地域住民との会話、小学校の行事参加、児童との交流会、回覧板を通して地域の情報共有など自治会会員として自然な形で暮らしていました。現在は少しずつ外出の機会を増やすことが出来ています。	自治会に加入し、コロナ禍以前は自治会の夏祭りに事業所の駐車場を提供したり、近隣の小学校の児童が来所して交流していました。現在は小学校の先生から交流再開の打診をもらっており検討中です。近くの公園や神社への散歩途中で住民と挨拶を交わし地域の人とのコミュニケーションを図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	2023/6より地域運営推進会議の集合開催を再開出来ています。会議では「認知症」について簡単な説明会を開催させて頂いております。今後も地域住民の皆様のご理解を得ながら、我々の出来ることで地域に貢献して参ります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	実践しているサービス状況、今後の予定などを報告した上で、地域の皆様のご意見を伺いサービスの質の向上を目指しております。議事録、報告書はご家族様、自治体に送付しています。	コロナ禍の書面開催を終了し、対面会議を再開しています。訪問看護師、地域住民、家族など各人が参加しやすくするために開催の固定日を決めず、変則的に行うことで多様な参加者の意見を貰うことができています。利用者も参加しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	御家族の支援が受けられない方を中心に、担当ケースワーカーや市町村担当者との連携を密に行うことにより関係性を築いております。	運営推進会議に瀬谷区高齢・障害支援課職員も参加し情報や意見を貰っています。生活保護費受給者の医療扶助などの相談や、担当者から生活保護者の入居相談も受けています。管理者は横浜高齢者認知症グループホーム連絡会ブロック会の役員を務めるなど、地域にあるグループホームとの連携の役割も担っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に会議を開催しています。同時に研修を行い職員全体で身体拘束の廃止に向け取り組んでいます。	「高齢者虐待防止、身体拘束排除に関する研修」を年2回行い、カンファレンスでも話題にして意識を高めています。管理者は、スピーチロックなど不適切な支援に気づいたときはその場で指導しています。利用者の安全と尊厳の両立を図る支援を行うために見守りセンサーを使用しています。家族に方針を説明し同意を得ています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を設置し、定期的に会議、勉強会を開催しています。また職員との面談、ヒアリングを行うなど職員間でもけん制が出来る体制を作っています。	身体拘束をしない研修や「虐待の芽チェックリスト」を年2回行い、カンファレンスでも話し合いをしています。接遇マナー研修も行い、職員からの言葉遣いの質問を、スピーチロックについての指導にもつなげています。職員が他の職員の不適切な支援に気づいたときは、管理者に報告して改善に繋がります。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所での勉強会を開催しています。またビデオ学習という形での研修も実施しており、定期的に学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	わかり易く丁寧な説明を行い、十分にご理解・納得を頂けるよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様の意見、ご要望を伺うために「意見箱」を玄関に設置しています。また、外部評価制度を活用し普段は集めることのできない率直な意見を伺っています。	家族の意見は、意見箱、面会時や運営推進会議参加時、メールや電話も活用して把握します。家族から「コロナ禍でも外出して」の要望受け少しずつ検討しています。毎月家族に「生活状況報告書」と写真を送付しており、「様子がわかってありがたい」の声ももらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、事業所会議を開催し職員の意見や提案を聞く機会を設けています。また定期的に個人面談を行い話を聞く機会を設けています。	職員の意見は、事業所会議や日頃の会話、携帯電話のSNSアプリを使って把握しています。職員から節約目的で手洗後に手を拭くハンドペーパーを各自の専用タオルで拭く方法に変更する提案がありました。定期的に行う個人面談でも意見、要望を話し合います。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	求人活動に尽力し、十分な人員体制を整え残業時間ゼロを目指しています。また、やりがいを持って取り組めるよう面談機会を充実させ目標を話し合っています。	管理者は職員の就業状況を把握し、個人面談で将来の希望や資格取得、休暇や勤務時間の要望、提案、仕事に関する悩みについて話し合います。管理者の「ノーと言わない」方針は職員に対しても同様であり、職員から要望された1ヶ月の休暇にも応えるなど、出来る限り対応しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	認知症介護実践者研修、介護福祉士資格取得研修、その他諸研修は職員に平等に受講させ、意識・理解・対応力を向上させるように努めています。なお外部研修に関する費用の補助も行っています。	社員の育成計画を作成しています。資格取得の外部研修受講は、費用の補助や研修時間を勤務扱いにする制度などで支援しています。内部研修は、非正規雇用の社員も受講可能です。個人面談で、目標、やりがいについて話し合い、モチベーション維持を図っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会への参加、他のグループホームへの訪問、同業者との親睦を深めることを通じてサービスの質の向上を目指しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者様が入居時の環境変化に伴う不安感を極力早く取り除き、安心できる住まいとなるように、個別に収集した情報・要望を基に支援計画を立て、全職員で足並みをそろえた対応ができるように申し合わせています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族との間で、何でも話し合える雰囲気作りを心掛けています。生活情報を頻繁に提供し、情報を共有することにより、信頼関係の構築に努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様、ご家族の希望・必要性を判断し、柔軟かつ速やかに個々に適した対応をしています。また、支援内容も優先順位をつけて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事の支度、後片付け、掃除、洗濯物の整理等の家事仕事や散歩を通して生活を共にしていることを実感して頂き“NOと言わない介護”を心掛け、自ら出来たことには共に喜び支えあう雰囲気作りを目指しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族への電話連絡で近況報告、情報交換を行い、ご家族様もケアに参画頂けるような生活支援を目指しています。入居者様の昔のエピソードの把握、病院への通院同行、レクリエーション等ホーム催事への参加等々。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	入居者様の大切な思いや関係を理解し尊重しています。普段からご本人の気持ちを把握して、ご家族や知人に伝える等の交流サポートを行っています。	入居時のアセスメントや日頃の会話から馴染みを把握しています。友人が来訪し歓談する利用者がいます。家族と馴染みの美容院でネイルを楽しんだり、墓参りする人もいます。ピアノの教師だった人がピアノを持ち込み事業所でも継続して弾けるように支援したことで、他の利用者の楽しみにもなっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の入居者様の性格・思いを把握し疎外感を感じること無く居心地の良い生活環境を提供出来るように心掛けています。また、認知症状の程度の差異によって起こる入居者様同士のトラブルには速やかに双方への対応に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	新しい生活で困る事の無いよう、しっかりと情報提供を行っています。退居後であっても不明点等があれば、きめ細かい説明をさせて頂いております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時にご本人やご家族の希望、意向を十分把握し日常生活の中では積極的に声掛けを行いご本人の言葉や表情から真意を推察、確認しています。また、入所前の生活歴を伺い生活援助計画の作成に当たっており、入居後も折を見て計画の再確認も行っています。	入居前に自宅で話を聞く際に、これまでの暮らしぶりを実際に見せてもらいます。これまでの生活状況を把握することで、安心してホームでの生活に慣れるよう配慮しています。家族から、この言葉かけをすると安心するという「安心する言葉かけ」の情報を聞いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴は、入居時や入居後ご家族の来訪時に、ご本人やご家族から話を伺い情報把握に努めています。また、折々ご本人との会話の中で昔話を話題にし情報収集に当たっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様との信頼関係が作られてくると入居者様本来の生活振りが現れてくるため、職員全員で観察に注力し日常の介護の中で気付いた事項は記録に残し、情報の把握、共有に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族、主治医、職員らの意見や助言を参考に利用者様主体の暮らしを反映した介護計画を作成しています。概ね6ヶ月毎に介護計画を見直しており、全入居者の心身状態も参考にして介護計画に反映させています。	毎月のユニット会議で、入居者の状況や変化など、全職員で意見交換をし、ケアプランに沿った介護が行われているか評価しています。6ヶ月ごとに家族に生活の様子を報告し、新たな要望を聞きプランの見直しをしています。体調が変化した時は、随時作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の生活援助記録に記載された中から、情報共有すべき事項は全職員に伝わるように、毎日の申し送り時に連絡を徹底しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々の入居者様の状況に応じて、柔軟なサービス提供を心掛けています。入浴やレクリエーション等も、個々の入居者様の当日の意欲に応じて行って実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議の委員として地域の民生委員、地域包括センターの方々に参画頂き、地域の各種情報収集や催事への参加を行っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月、提携医療機関による訪問診療を受診しています。受診時には調剤薬局の薬剤師も同行し、医師への情報提供や投薬相談を行い、その結果を共有して日常介護に生かしています。	すべての入居者は、事業所の協力医の訪問診療を、月2回受けています。急な体調変化にも対応でき、内科・皮膚科・精神科・眼科を備えています。看護職員より、飲み込みが難しくなった入居者の薬の調整を提案するなど、適切な看護が受けられるよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週、提携医療機関の看護師が訪問し、各入居様が適切な看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、ご家族、訪問診療の主治医、提携先病院の地域連携相談室の社会福祉士と十分連絡をとりながら、ご本人の状態・希望に沿った退院後の介護計画を作成している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人の思い、ご家族の意向を踏まえ、医師と職員が連携を取り、重度化に伴う意思確認書を作成して、ホームが対応出来る最大のケアについて、ご本人、ご家族に説明しています。	契約時に重度化に伴う対応について家族に説明しています。早期から話し合うことで、方針の統一を図っています。「急変時や終末期における延命治療についての意思確認書」では急変時とは、終末期とは、また延命治療とは、どのような治療や内容なのか、家族や本人に丁寧に説明しています。随時話し合い、安心して最期を迎えられるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日頃から、主治医や訪問看護師から、適切な指導を受けています。また、マニュアルを作成し即対応出来るよう備えています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年二回の防災訓練を実施しています。また、地域の特性である水害対策も検討し避難場所の確認、避難方法の確認を行っています。	夜間と日中を想定して、入居者と共に避難訓練をしています。消防署の協力で、消火器の使い方や、事業所に備えてあるAEDにて心肺蘇生法の講習を受けています。浸水被害には、施設の2階への垂直避難で安全を確保し、また災害時には近くの中学校を避難場所としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者に対して敬意を払い、馴れ合いの中でご本人の尊厳を傷付けないように配慮しています。ご本人の気持ちを大切にし、さりげないケアと自己決定し易い言葉掛けをするように配慮しています。	入居者の思いを把握し、その人らしく生活できるよう支援しています。若い頃ピアノの先生だった人の伴奏で毎朝歌を歌い、綺麗好きな人は箒で室内をはいたり、役割を持って生活しています。職員の押し付けや都合ではなく、入居者が自分の思いで生活できるよう支援しています。入居者からの「ありがとう」の言葉が職員のやりがいにもつながっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様に接する姿勢として、話の聞き手となり、気持ち・思いを汲み取ることを申し合わせています。職員の思い・考えを強要せず、ご本人が自分の思いの世界に入ることが出来るような姿勢で対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様のペースを大切にし、ご本人の希望・要求・苦情に対しては真摯に聞く姿勢で援助しています。各入居者様がホーム生活の中で、担える役割、得意な家事を見出し、互いに生活を支え合う気持ちを醸成しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝の起床後や入浴後の整容を援助しています。 外出の際には、身だしなみを整え、お洒落が出来るように支援しています。 また2ヶ月に1度、訪問理美容を利用しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節に合わせた行事を企画開催しイベント食を用意しています。入居者様に季節を感じて頂けるよう工夫しています。また、実際にキッチンに入って頂くこともあります。	コロナ5類への移行による制限緩和で、久しぶりに近所のレストランに皆で食事に行っています。入居者の、いつも以上の食欲に驚き、食べることの喜びや楽しさを再確認しています。家族も参加した夏祭りでは、飲み込む力が弱くミキサー食を常食としている人にも、皆と同じもので楽しんでもらいたいとの職員の思いから、見た目はほぼ同じ形のホットドックを工夫して作ることで家族と利用者の笑顔につながっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	排泄・水分摂取チェック表を作成し、活用しています。栄養バランスは、食材宅配業者を活用し、栄養士によるバランスのとれた“福祉メニュー”による食事の支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きの声掛け及び口腔ケアを実施しています。就寝前には義歯洗浄・消毒も行っています。 また、必要のある入居者様には適宜、訪問歯科医による口腔ケアを実施しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツ使用を極力避けるため、排泄チェック表を活用して、トイレに誘導し排泄して頂ける様に支援しています。	自立歩行の人が多く、自分のペースでトイレに通っています。職員は主に排便の確認をしています。朝夕2回体操を行い、足の筋肉低下の防止に努めています。意思疎通の困難な人には、声かけを工夫しています。首を動かす動作で意志を伝えられるようにゆっくり誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物の工夫や水分補給の励行を行っています。また、毎日体操を行うなど、運動への働きかけを行っています。便秘が継続する方には、看護職員が医師と相談し、下剤の使用も検討しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回以上の入浴機会を約束し、ご本人の当日の体調や希望を確認して入浴して頂いています。また入浴支援時の会話を、本人の趣味や意向を聴取出来る良い機会としています。	お湯は一人ずつ入れ替えて、清潔を保っています。入浴剤や、ゆず湯、しょうぶ湯などで季節を感じられるようにしています。毎日、夕方シャワー浴を日課にする人もいるなど、各自自由に入浴できるようにしています。入浴の理解が難しい人には、洋服を脱ぐイラストを使うなど、工夫して支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室での休息・睡眠は入居者様個々の希望に沿う形で支援しています。居室内の保清・安全にも配慮し、居室内の快適な生活・睡眠のために採光・空調にも留意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	毎週、薬剤師が訪問し服薬目的や副作用に関する説明・指導を受けています。また、看護職員からの説明や薬剤の処方説明書による確認も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各自の趣向・能力/得手不得手を考慮しながら、皆で楽しむレクリエーションや共同作業を行っています。職員は場の和やかな雰囲気作り、活躍の場作り等、皆様が達成感を享受できるような声掛け等の支援を行っています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別ケアを始めとして、少人数での外出支援を行っています。イベントとして予め準備期間を経て実施します。	コロナ禍では外出を自粛していましたが、花見気分を味わえるように、近くの神社の大きな桜の木を2階の広いテラスから眺めるような工夫をしました。最近では、感染対策をしながら、家族との外出や食事、また外泊で利用者が楽しめるように支援しています。11月には、近所の神社の「ふれあい文化祭り」に参加を予定しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様が、独自での金銭管理が困難なため、個人購入費は一括して法人で一時立替え、家賃等の毎月発生する経費に加算して精算しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	事務所内の固定電話又は携帯電話で随時ご家族等と連絡がとれる仕組みになっています。ご家族やご友人との絆を維持するための支援を行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング、浴室、トイレ等、特に使用する共用部はより清潔感を感じて頂けるよう清掃の徹底をしています。掲示物からは季節を感じて頂いたり、各居室は入居者様の希望する生活空間を作れるよう努めています。	明るいろリビングは、清潔を保ち、動線をゆったりと確保し、室内で歩行器が使用できるようにしています。温かい雰囲気になるように、台所には「まかない処」、風呂には「長寿の湯」などの看板を掲げています。夏祭り、七夕祭り、誕生日の笑顔の写真を飾り、季節感や生活の様子が感じられるような工夫もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者様の馴染みの物を近くにおいて、居心地良く過ごして頂けるように心掛けています。自分の居場所としてリビングのテーブルの席を指定しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様が自宅で馴染んでいた品（仏壇、箆笥、鏡台、TV等）を持ち込んで頂き安心して過ごせる空間作りを心掛けています。	使い慣れたソファを持参し安心して繋げています。入居前に可愛がっていた犬や家族と外出時に映した写真などを飾っています。好みのものに囲まれ、ゆったりと過ごす居心地の良い部屋になるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリー環境を整え安心、安全に生活をして頂けるよう努めています。入居者様が各自の身体機能に応じた行動が自由に来るようサポートしています。		

事業所名	グループホーム ソラスト瀬谷
ユニット名	1階けやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	2022年度より企業理念が一新され、それを基に事業所の理念も改めています。職員との共有は毎月の全体ミーティングや個別の面談等の機会を設けています。それを利用者様へのケアに活かせるよう取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍以前は、近隣散策の際の地域住民との会話、小学校の行事参加、児童との交流会、回覧板を通して地域の情報共有など自治会会員として自然な形で暮らしていました。現在は少しずつ外出の機会を増やすことができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	2023/6より地域運営推進会議の集合開催を再開出来ています。会議では「認知症」について簡単な説明会を開催させて頂いております。今後も地域住民の皆様のご理解を得ながら、我々の出来ることで地域に貢献して参ります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	実践しているサービス状況、今後の予定などを報告した上で、地域の皆様のご意見を伺いサービスの質の向上を目指しております。議事録、報告書はご家族様、自治体に送付しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	御家族の支援が受けられない方を中心に、担当ケースワーカーや市町村担当者との連携を密に行うことにより関係性を築いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に会議を開催しています。同時に研修を行い職員全体で身体拘束の廃止に向け取り組んでいます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を設置し、定期的に会議、勉強会を開催しています。また職員との面談、ヒアリングを行うなど職員間でもけん制が出来る体制を作っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所での勉強会を開催しています。またビデオ学習という形での研修も実施しており、定期的に学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	わかり易く丁寧な説明を行い、十分にご理解・納得を頂けるよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様の意見、ご要望を伺うために「意見箱」を玄関に設置しています。また、外部評価制度を活用し普段は集めることのできない率直な意見を伺っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、事業所会議を開催し職員の意見や提案を聞く機会を設けています。また定期的に個人面談を行い話を聞く機会を設けています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	求人活動に尽力し、十分な人員体制を整え残業時間ゼロを目指しています。また、やりがいを持って取り組めるよう面談機会を充実させ目標を話し合っています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	認知症介護実践者研修、介護福祉士資格取得研修、その他諸研修は職員に平等に受講させ、意識・理解・対応力を向上させるように努めています。なお外部研修に関する費用の補助も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会への参加、他のグループホームへの訪問、同業者との親睦を深めることを通してサービスの質の向上を目指しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者様が入居時の環境変化に伴う不安感を極力早く取り除き、安心できる住まいとなるように、個別に収集した情報・要望を基に支援計画を立て、全職員で足並みをそろえた対応ができるように申し合わせています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族との間で、何でも話し合える雰囲気作りを心掛けています。生活情報を頻繁に提供し、情報を共有することにより、信頼関係の構築に努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様、ご家族の希望・必要性を判断し、柔軟かつ速やかに個々に適した対応をしています。また、支援内容も優先順位をつけて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事の支度、後片付け、掃除、洗濯物の整理等の家事仕事や散歩を通して生活を共にしていることを実感して頂き“NOと言わない介護”を心掛け、自ら出来たことには共に喜び支えあう雰囲気作りを目指しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族への電話連絡で近況報告、情報交換を行い、ご家族様もケアに参画頂けるような生活支援を目指しています。入居者様の昔のエピソードの把握、病院への通院同行、レクリエーション等ホーム催事への参加等々。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様の大切な思いや関係を理解し尊重しています。普段からご本人の気持ちや把握して、ご家族や知人に伝える等の交流サポートを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の入居者様の性格・思いを把握し疎外感を感じる事無く居心地の良い生活環境を提供出来るように心掛けています。また、認知症状の程度の違いによって起こる入居者様同士のトラブルには速やかに双方への対応に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	新しい生活で困る事の無いよう、しっかりと情報提供を行っています。退居後であっても不明点等があれば、きめ細かい説明をさせて頂いております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時にご本人やご家族の希望、意向を十分把握し日常生活の中では積極的に声掛けを行いご本人の言葉や表情から真意を推察、確認しています。また、入所前の生活歴を伺い生活援助計画の作成に当たっており、入居後も折を見て計画の再確認も行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴は、入居時や入居後ご家族の来訪時に、ご本人やご家族から話を伺い情報把握に努めています。また、折々ご本人との会話の中で昔話を話題にし情報収集に当たっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様との信頼関係が作られてくると入居者様本来の生活振りが現れてくるため、職員全員で観察に注力し日常の介護の中で気付いた事項は記録に残し、情報の把握、共有に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族、主治医、職員らの意見や助言を参考に利用者様主体の暮らしを反映した介護計画を作成しています。概ね6ヶ月毎に介護計画を見直しており、全入居者の心身状態も参考にして介護計画に反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の生活援助記録に記載された中から、情報共有すべき事項は全職員に伝わるように、毎日の申し送り時に連絡を徹底しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々の入居者様の状況に応じて、柔軟なサービス提供を心掛けています。入浴やレクリエーション等も、個々の入居者様の当日の意欲に応じて行って実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議の委員として地元の民生委員、地域包括センターの方々に参画頂き、地域の各種情報収集や催事への参加を行っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月、提携医療機関による訪問診療を受診しています。受診時には調剤薬局の薬剤師も同行し、医師への情報提供や投薬相談を行い、その結果を共有して日常介護に生かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週、提携医療機関の看護師が訪問し、各入居者様が適切な看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には、ご家族、訪問診療の主治医、提携先病院の地域連携相談室の社会福祉士と十分連絡をとりながら、ご本人の状態・希望に沿った退院後の介護計画を作成している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人の思い、ご家族の意向を踏まえ、医師と職員が連携を取り、重度化に伴う意思確認書を作成して、ホームが対応出来る最大のケアについて、ご本人、ご家族に説明しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日頃から、主治医や訪問看護師から、適切な指導を受けています。また、マニュアルを作成し即対応出来るよう備えています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年二回の防災訓練を実施しています。また、地域の特性である水害対策も検討し避難場所の確認、避難方法の確認を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者に対して敬意を払い、馴れ合いの中でご本人の尊厳を傷付けないように配慮しています。ご本人の気持ちを大切にし、さりげないケアと自己決定し易い言葉掛けをするように配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様に接する姿勢として、話の聞き手となり、気持ち・思いを汲み取ることを申し合わせています。職員の思い・考えを強要せず、ご本人が自分の思いの世界に入ることが出来るような姿勢で対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様のペースを大切にし、ご本人の希望・要求・苦情に対しては真摯に聞く姿勢で援助しています。各入居者様がホーム生活の中で、担える役割、得意な家事を見出し、互いに生活を支え合う気持ちを醸成しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝の起床後や入浴後の整容を援助しています。 外出の際には、身だしなみを整え、お洒落が出来るように支援しています。 また2ヶ月に1度、訪問理美容を利用しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節に合わせた行事を企画開催しイベント食を用意しています。入居者様に季節を感じて頂けるよう工夫しています。また、実際にキッチンに入ってもらくこともあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	排泄・水分摂取チェック表を作成し、活用しています。栄養バランスは、食材宅配業者を活用し、栄養士によるバランスのとれた“福祉メニュー”による食事の支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きの声掛け及び口腔ケアを実施しています。就寝前には義歯洗浄・消毒も行っています。また、必要のある入居者様には適宜、訪問歯科医による口腔ケアを実施しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツ使用を極力避けるため、排泄チェック表を活用して、トイレに誘導し排泄して頂ける様に支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物の工夫や水分補給の励行を行っています。また、毎日体操を行うなど、運動への働きかけを行っています。便秘が継続する方には、看護職員が医師とし相談し、下剤の使用も検討しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回以上の入浴機会を約束し、ご本人の当日の体調や希望を確認して入浴して頂いています。また入浴支援時の会話を、本人の趣味や意向を聴取出来る良い機会としています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室での休息・睡眠は入居者様個々の希望に沿う形で支援しています。居室内の保清・安全にも配慮し、居室内の快適な生活・睡眠のために採光・空調にも留意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	毎週、薬剤師が訪問し服薬目的や副作用に関する説明・指導を受けています。また、看護職員からの説明や薬剤の処方説明書による確認も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各自の趣向・能力/得手不得手を考慮しながら、皆で楽しむレクリエーションや共同作業を行っています。職員は場の和やかな雰囲気作り、活躍の場作り等、皆様が達成感を享受できるような声掛け等の支援を行っています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別ケアを始めとして、少人数での外出支援を行っています。イベントとして予めの準備期間を経て実施します。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様が、独自での金銭管理が困難なため、個人購入費は一括して法人で一時立替え、家賃等の毎月発生する経費に加算して精算しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	事務所内の固定電話又は携帯電話で随時ご家族等と連絡がとれる仕組みになっています。ご家族やご友人との絆を維持するための支援を行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング、浴室、トイレ等、特に使用する共用部はより清潔感を感じて頂けるよう清掃の徹底をしています。掲示物からは季節を感じて頂いたり、各居室は入居者様の希望する生活空間を作れるよう努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者様の馴染みの物を近くにおいて、居心地良く過ごして頂けるように心掛けています。自分の居場所としてリビングのテーブルの席を指定しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様が自宅で馴染んでいた品（仏壇、筆筒、鏡台、TV等）を持ち込んで頂き安心して過せる空間作りを心掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリー環境を整え安心、安全に生活をして頂けるよう努めています。入居者様が各自の身体機能に応じた行動が自由に出来るようサポートしています。		

2023年度

事業所名 ソラスト瀬谷

作成日： 2023年 11月 6日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	企業理念の掲示はされているが、事業所理念も作成されているのに掲示がされていない。	事業所理念を各フロアに掲示し、職員各々が日々理念を確認をしながら業務に当たれる環境を作る。	事業所理念をプリントし掲示する。	即時
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月